

# 青森山田高等学校

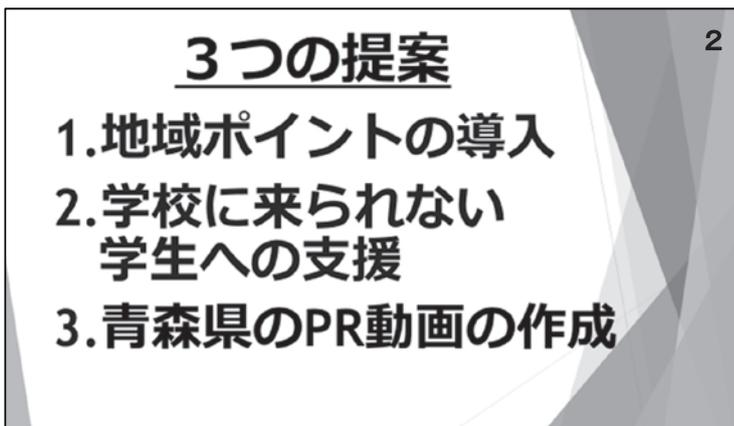
「青森リフレッシュ化計画  
～次代を担う若者の活躍の場～」



平成29年度高校生模擬議会 青森山田高等学校 平成30年2月8日(木)



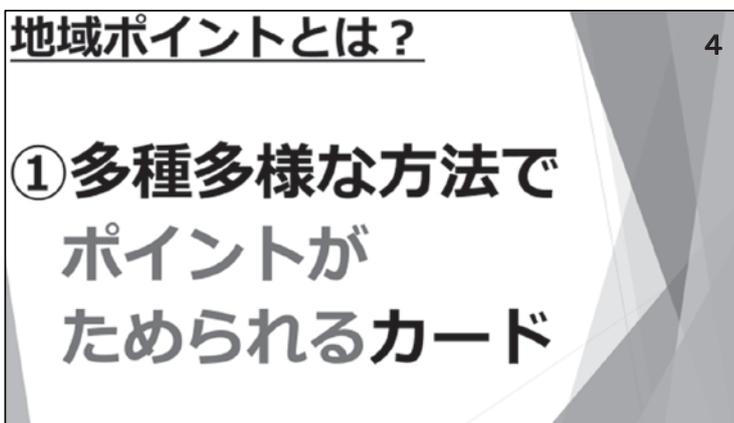
私たち青森山田高校は、「青森リフレッシュ化計画～次代を担う若者の活躍の場～」を提案します。(1)



1つ目に、地域ポイントの導入、2つ目に、学校に来られない児童・生徒への支援、3つ目に青森県のPR動画の作成です。(2)



1つ目に、私たちは地域ポイントの導入を提案します。(3)



最初に地域ポイントの説明です。地域ポイントとは、多様かつ幅広い方法で貯められる地域通貨です。例としては買い物、地域への活動参加、アンケートへの回答で貯められます。(4)

## 地域ポイントとは？

5

### ②ポイントは提携している場所で使用可能

ポイントは通貨として提携している様々な場所で使用できます。公民館での講習会への参加やスポーツ観戦もポイントを使用できるようにしたいと考えています。(5)

## 地域ポイントとは？

6

### ③ホームページを作って情報発信

そして、このポイントのホームページを作り、利用方法を記載したり、提携しているお店を紹介して地域の情報発信をしたいと考えています。(6)

## 地域ポイントとは？

7

### ④大手企業と提携する (決済の一部を県に還元してもらう)

また、大手企業のカードと提携することで、独自カードの発行等にかかる費用を抑え、同時にカードの普及をねらうことができます。さらに決済の一部を県に還元してもらえるような制度を作ります。(7)

## 地域ポイントとは？

8

### ⑤一定規模以下の商店が導入する際に費用の一部を県が補助

地元企業、個人商店が加盟する際には、県が費用の一部を負担することで加盟しやすくします。(8)

## 補足

9

- ・ **ポイントの有効期限を長めにする**
- ・ **学生にはポイント優遇**

さらにはポイントの有効期限を長くして利用しやすくし、学生には他の人よりも高い還元率にするなど、ポイントを優遇することで金銭的な負担を軽減します。(9)

他の自治体でも導入例があります。例としては、香川県高松市の「めぐりんマイル」があります。2010年に始まり、今では500店以上が加盟している地域通貨です。貯め方が豊富で地域に貢献して得たポイントを地域で使用するというサイクルができています。また、岩手県盛岡市には「MORIO-J」という通貨もあります。協業している大手企業から決算の一部を寄付してもらう協定を結んでいます。(10)

## 他県での例

10

- めぐりんマイル  
(香川県 高松市)
- MORIO-J  
(岩手県 盛岡市)

県、店、利用者側の観点から3つの利点を挙げたいと思います。まず県における利点です。1つ目は県内の経済活性化です。ポイントで購買力のアップが図られるだけでなく、地域活動、イベントにもポイントを使用させていただくことで人や物、そしてお金の流れが活発になると考えています。2つ目は学生の活発化です。学生へのポイントを優遇することで、学生がイベントに参加し活動の場が広がると思っています。3つ目は地域が活気づくことです。利点の1つ目と重なりますが、人や物、お金が動くので地域の活性化、活気につながると思います。(11)

## 地域ポイントの利点 県

11

- ・ **県内の経済活性**
- ・ **学生が活発になる**
- ・ **地域交流が活発になる**

次にお店における利点です。1つ目は顧客情報が入ることです。カードを使用するため、顧客のデータが入るのでマーケティングに生かれます。2つ目は県から補助が出ることです。個人や中小規模のお店が独自にポイント制を導入しても、費用に対する効果が薄いかもしれません。しかし県から補助が出ることで参加しやすくなり、地域ポイントの恩恵に預かれると思います。3つ目は売れ行きの上昇です。買い物の手軽になりリピーターが増えるので、商品の購入回数の伸びが見込めます。(12)

## 地域ポイントの利点 お店

12

- ・ **顧客情報が入る**
- ・ **県から補助がでる**
- ・ **売れ行きが上がる**

## 地域ポイントの利点

13

### 利用者

- ・ 安くなる
- ・ ポイント利用で便利
- ・ 地域の情報が入りやすくなる

最後に利用者における利点です。1つ目は、安くなることです。購入時にポイントが付くので実質安くなります。2つ目はポイントの利用、買い物の利便化です。支払い手段が増えるので買い物が便利になります。3つ目は地域の情報が入りやすくなることです。ホームページには情報を記載することもできますし、ポイント加盟店にも情報を掲示してもらうなど、地域の情報発信を盛んにできます。

## 2つ目の提案

14

### 学校に来られない 学生への支援

外部の調査によると地域通貨を導入したことで地域住民の交流が盛んになった、街にも興味が高まった、といった変化が出た団体が多いようです。青森県でもこれが実現できれば、地域が活性化し、若者の活発化につながると思います。

以上のことから、地域ポイントの導入を提案します。(13)

## 提案の理由

15

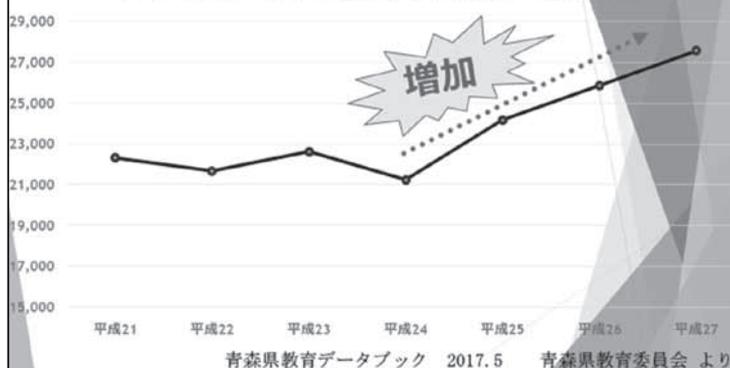
### 不登校生が 年々増加していく傾向 にある

私たちは、2つ目に、学校に来られない児童・生徒への支援を提案します。(14)

現状として不登校生が近年増加しています。(15)

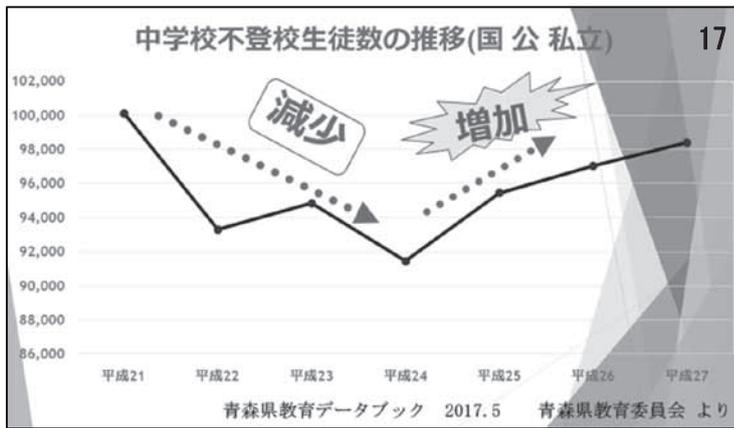
小学校不登校生徒数の推移(国 公 私立)

16

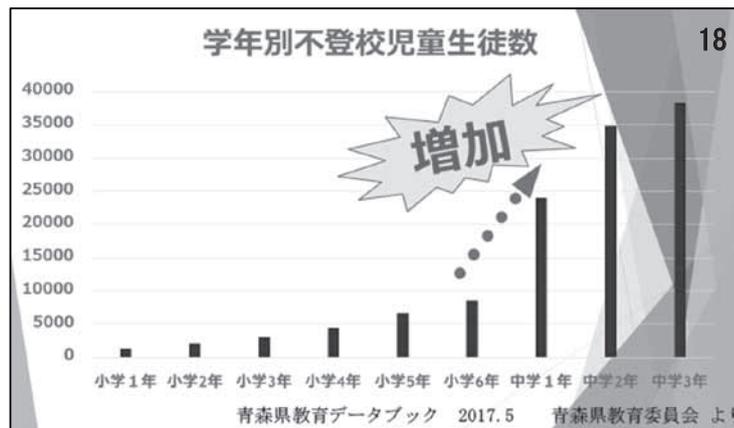


このグラフは全国の国公立や私立の学校の不登校生に関するデータで、小学校不登校生徒数の推移です。全国では平成24年から急激に増加しているのが分かり、本県でもそのような傾向があります。

(16)



こちらのグラフは中学校不登校生徒数の推移です。こちらでも平成24年から増加しているのが分かります。(17)



これが小学校、中学校での不登校の人数グラフです。左から、小学1年生から中学3年生となっています。小学校から中学校へ進学する時の伸びが一番激しいことが分かります。(18)

### 不登校となったきっかけ

	小学生	中学生
1位	不安 9338人	不安 27302人
2位	無気力 5950人	無気力 25884人
3位	親子関係 4932人	友人関係 14925人
4位	友人関係 2905人	学業の不振 8984人

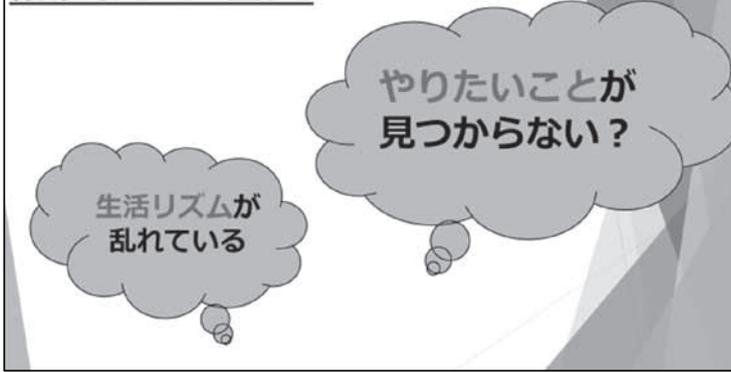
理由としてはこのようになっています、1位に不安、2位に無気力と、小学校、中学校の1位、2位に共通の理由が上っています。今回、私たちはこの1位と2位に注目しました。(19)



まず1位に不安があります。不安の理由として学業の不振や小学校から中学校に進学した時の新しい環境に慣れていないためといった理由が上っています。(20)

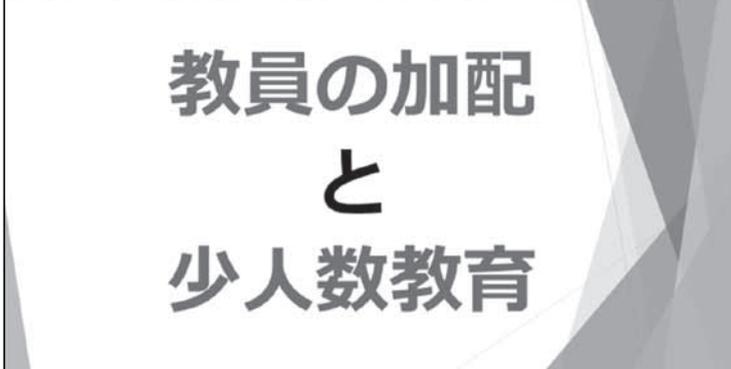
## 無気力の理由

21



そして2位に無気力があります。元教師の方や元講師の方のウェブサイトを見ると、「やりたいことが見つからない」「生活リズムが乱れている」といった理由が挙げられています。(21)

## 新しい環境へ馴染めない生徒へは<sup>22</sup>



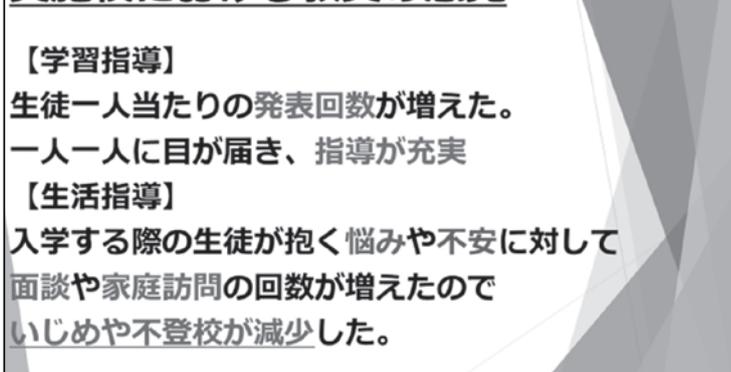
新しい環境に馴染めない児童、生徒へのサポートとして、教員の数を増やす、少人数教育を実施することを提案します。(22)

	加配校	未加配校	23
基礎・基礎の学力	34.0%	17.6%	
いじめの発生が減少	44.7%	20.8%	
基本的生活習慣が定着	46.8%	27.5%	
授業中の学習態度が改善	50.0%	29.4%	
学習に対する意欲がない生徒の割合が減少	35.1%	14.8%	
生活指導上の問題行動が減少	38.3%	19.5%	

この表をご覧ください。これは東京都で実施された結果です。この表を見るといじめの発生が減少し、下から2番目にあります「学習に対する意欲がない生徒の割合」も大幅に減少しているのが分かります。(23)

## 実施校における教員の意見

24



これは加配を実施している学校の先生方の意見ですが、学習面では生徒一人当たりの発表回数が増え、指導も充実し、生活指導面では入学する際の生徒が抱く悩みや不安などに対して面談や家庭訪問の回数が増し、結果としていじめや不登校生の割合が減少したといったものがありました。(24)

**学業の補助** 25

**フリースクール×学校**

校長先生の許可 

↓

**出席日数の確保**  
親子に安心と余裕ができる

それでも不安や無気力で学校にいけない生徒のために、フリースクールと学校の連携を提案します。この案は、既に全国で4割実施されているもので、校長先生が許可を出していただければ出席日数を確保することができ、親子の学校への安心にもつながります。フリースクールの場所も、県内の廃校になった校舎を利用すると新たな施設への予算削減にもなります。(25)

**まとめ** 26

学生に対し、  
学校からさらに手厚くサポートをする

教員の加配

少人数教育

→

学校生活の  
充実へ

これらのことを導入し、児童、生徒全員がより学校に通いやすく勉強もより集中しやすい環境を作ることが目標です。(26)

**3つ目の提案** 27

**若者による青森県の  
PR動画の作成**

3つ目の提案は、青森県のPR動画の作成です。PR動画は既にありますが、若者を中心に作成することを提案します。若者を中心として作成することの良さは3つあります。(27)

**1つ目** 28

・ **もっと多くの若者に青森を  
深く知ってもらいたい。**

1つ目、若者が青森を知る機会が増えるということ。(28)

## 2つ目

29

- ・若者の情報モラルを向上させるために

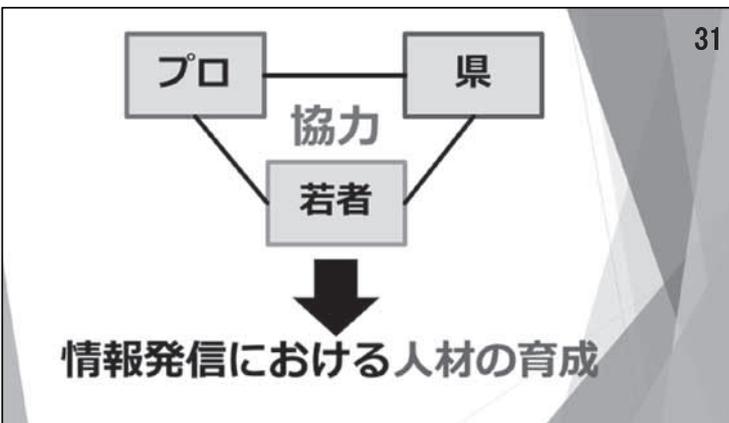
2つ目、若者が正しく情報発信することの必要性を学ぶということ。(29)

## 3つ目

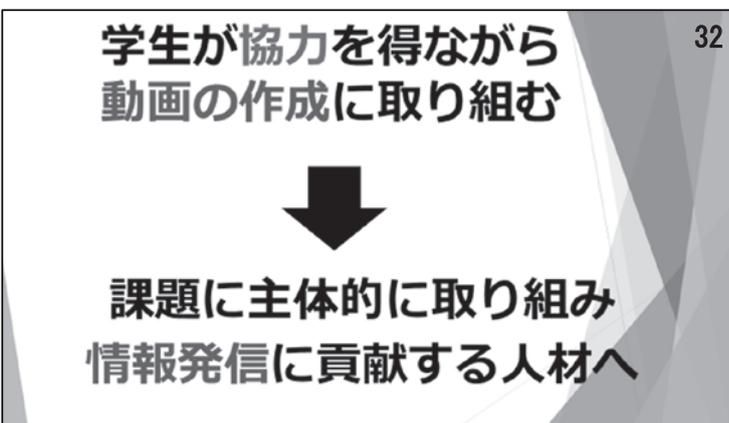
30

- ・協力し合い目標を達成する経験

3つ目、動画を作成することを通して、若者が社会や文化に理解と関心を持ち、協力し合うことの大切さを学ぶということです。(30)



このように若者が中心となり青森県の情報発信をすることで、人材育成につながると考えました。(31)



それでは具体的な方法です。動画は学生を中心として、県と撮影のプロの協力をいただきつつ、イチから作成いたします。学生が主体的に取り組むことで、情報発信に貢献する人材が育成されると思っています。(32)

## 動画の内容

33

### シリーズ形式

例) 自然シリーズ  
食シリーズ  
祭りシリーズ...など

動画の内容は、青森県の自然、食、祭りなどシリーズものにする事で、前回までの反響や傾向を加味してより良い動画を作り出すことができます。(33) (34)

## シリーズ形式のメリット

34

継続して動画を作成



反響を踏まえて  
さらに良い動画を作成

## 動画の投稿先

35

サイト：県庁ホームページ  
青森県情報サイト  
アプティネット...

SNS：Twitter 、YouTube   
Facebook  ...

作成した動画は県のホームページやSNSへ投稿します。特にSNSへの投稿については、若者が中心として作成するため、とても拡散されやすいと考えています。(35)

# 効果

36

これらの活動を行うことで、3つの効果を期待することができます。(36)

## 効果1

37

青森に理解ある若者 増加の期待

若者から若者へ  
情報発信しやすい

1つ目、青森のことを深く理解する若者の増加です。(37)

## 効果2

38

より良い動画ができる

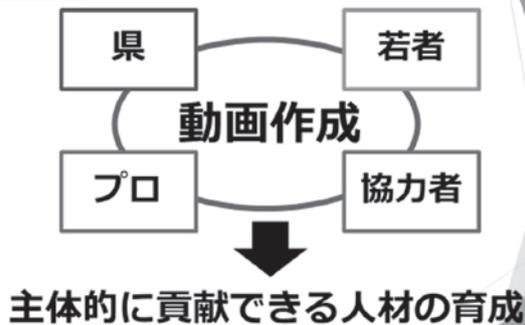
↓

国内外 問わず  
青森をPR

2つ目、観光客の増加です。より良い動画が発信されることで、青森県の魅力を多くの人に伝えることができます。(38)

## 効果3

39



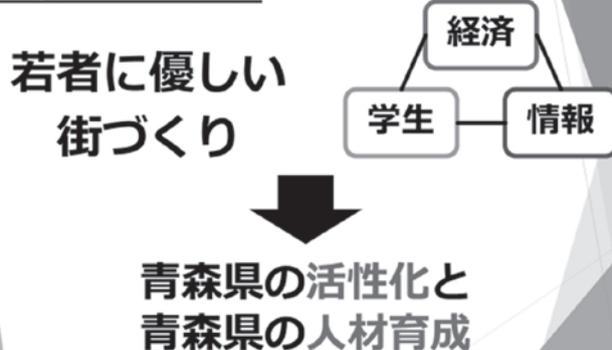
3つ目は情報分野で主体的に活躍できる人材の育成です。地元の方にも制作に協力していただき、地元を挙げて動画を作りたいと思います。今回、私たちは地元の方の協力をいただき動画を作成しました。まずはそちらをご覧ください。

～動画放映～

以上が青森県のPR動画についての提案です。(39)

## 全体のまとめ

40



私たちは若者に優しい街づくりのために、若者への支援を中心として経済と学生と情報という3つの体制を整えることで、青森県の活性化と将来を担う人材育成を行います。(40)

ご清聴  
ありがとう  
ございました

## 【質 疑】

●<sup>やまぐち</sup>山口 <sup>たきし</sup>多喜二議員（自由民主党）

### （山口議員）

若者に優しい街づくりということで、いろいろな素晴らしいお話がありました。

1つ目の質問をしたいと思います。青森県の活性化と人材育成について、特に若者を対象とした提案でしたが、対象を若者にした理由をお伺いいたします。

### （回答）

まず、僕たちの目標は若者の県外への流出を避けることと県内で新しい雇用を生み出すことにつなげることです。青森県のデータでは、県外に出て行く若者の数は18歳が最も多く、次に22歳、20歳と続いています。しかし、県内の人口減少を防げれば、消費は自然的に増えます。経済もうまく回ることでしょう。また、これからは高齢化により介護業界などで労働力が不足してくると思われれます。進学や就職などで県内に留まる若者が増えれば、万年後継者不足に悩む第一次産業でも新たな担い手となってくれることでしょう。以上が、僕たちが若者を対象にした理由です。

### （山口議員）

大変素晴らしいことだと思っています。人口減少による人材の確保が難しい。この問題は青森県の未来ということを考えますと、非常に切羽詰まった状況にあるということで、しっかりとこのことに取り組んでいきたいと思うわけでございます。

それでは2つ目の質問ですが、3つの提案について実現するためにはどのような課題があるか、高校生の皆さん自身はどのような活動をしていきたいか、お伺いします。

### （回答）

まず地域ポイントについての課題ですが、これは賛同してくれる企業があるか、というところに尽きると思います。その対策として、僕たちは「めぐりんマイル」のようにイオングループのワオンカードと連携しようと考えています。具体的には1枚のカードで地域ポイントとワオンが同時に貯まるようにしたいと思っています。実際に、「めぐりんマイル」にはワオンを含め最大20種類のポイントサービスを搭載しています。僕たちはこれを実現したいと考えています。

また教育の分野についての課題ですが、これには学校や教員に頼り過ぎているということが挙げられます。しかし、不登校の生徒をなくすために、僕たちが今、この場から出来ることが1つあります。それは誰に対しても積極的な挨拶をすることです。現在、青森山田高校では、「青森山田ABC」という活動を行っています。「青森山田ABC」とは、「当たり前のことを、ぼんやりしないで、ちゃんとやろう」ということです。自分たちで先生や友達に対して毎日積極的に挨拶をすることにしています。やはり、人は誰でも明るく元気な挨拶をされると安心します。そして、そこに生きる意味や希望を見出せると思います。この学校にいていいんだ、このクラスに僕の居場所があるんだなど、人によって様々思うかもしれませんが、プラスに作用することは間違いないでしょう。そして、それはいじめの減少にもつながります。皆さんもぜひ、今、この瞬間から青森山田ABCを始めてみてはどうでしょうか。

### （山口議員）

とても素晴らしいお答えをいただいたなと思っています。

今後、このアイデアを現実のものにしていくとなれば、やはり県としっかりと手を合わせてやっていかないといけない、そういうことも視野に入れていかないといけないと思っています。

ぜひ、このアイデアのブラッシュアップを期待しております。どうぞ、よろしくお伺いいたします。

（松田議員）

若者に優しい街づくりということで、皆さんのテーマの設定がすごくいいなという感じで受け止めています。

3つの提案がありましたけれども、それぞれ素晴らしい提案だと思いますが、この中で皆さんが一番力を入れて提案をしたいと思っているもの、そしてその理由についてお伺いをしたいと思います。

（回答）

僕たちとしては3つの提案全てが大切です。これは安倍首相が以前に国会で提案したアベノミクス、3本の矢のように、3つあってより効果を発揮するものだからです。いわば、3つの提案は全てに影響を及ぼしています。僕たちは模擬議会で発表をする内容を考えた時に、学生という単語から派生して考えていきました。そうやって議論を深めていく中で、関連している部分や、お互いに関わり合っている部分をピックアップしていったら今回の発表になりました。

例えば動画の分野と教育の分野の関連では、無気力な生徒にITに興味を持たせようという狙いがあります。今の社会がIT社会と言っても過言ではありません。それに動画というのは1人でできるものではありません。僕たちも実際に動画を作成するにあたって、様々な人に協力をさせていただきました。また撮影するシリーズによっては、街の人たちと積極的に関わる必要がでてきます。つまり動画作成にはたくさんの協力者が必要だということです。

（松田議員）

3つとも非常に大事なテーマだというご説明、大変分かりました。3つともお聞きしたいところですけども、時間の関係がありますので、地域ポイントについてお伺いをしたいなと思います。

大変いいアイデアだと思いますし、具体的な事例も用いてご紹介をいただきました。ただ、私がちよっと心配なのは、既存のポイントがありますよね、いろいろ。例えばTポイントだとかあるようでございます。そういう既存のポイントと競合する恐れがないのかなと、その辺が心配です。そういった場合に、何か対策をお持ちであればお伺いしたいと思います。

（回答）

先ほどスクリーンでご覧いただきましたように、この地域ポイントの導入には大きな企業の協力が不可欠です。なぜならポイントの導入には、大手企業の販売ルートに加えていただく必要があるからです。例を挙げますと、あるドラッグストアでは、その店のポイントと楽天ポイントが両方貯まります。また、香川県の「めぐりんマイル」は実際に大手企業と提携しております。この「めぐりんマイル」は、今では6人に1人が持つと言われていて、以上の点から、他のポイントとの共存は可能であるという結論に達しています。

しかし、本当にうまくいくかは分かりません。そのため、僕たちはある奇策を用意しています。それは県内にある中小企業全てにこの地域ポイントを導入してもらうということです。言い換えると、今、各商店でバラバラに出しているポイントカードを統一するということになります。僕たちは、この地域ポイントを、例えるならば東京駅のようにしたいと考えています。地域ポイントを東京駅だとすると、大手企業がこちら側の線路になります。そして東京駅を挟んで中小企業がこちらになります。そして、この地域ポイントで全てが連結するようにしたいと考えています。まさに東京駅が繁栄しているように、非常に大きな利点があると思います。まず高齢者の方々にとっては、持ち運ぶカードが少なくなり、いちいちレジで会計の時に財布の中を探す必要がなくなるというメリットがあります。また中小企業の商店の場合にも、自分たちでカード発行の費用を負担

しなくていいので、その分、違うところにお金を回せるということが挙げられます。そして大手企業にしてみれば、ポイントカードを参入するにはちょっと、といったお店の顧客情報を共有し、さらなるビジネスにつながられるという利点があります。これが僕たちが提案する対策とその理由です。

**(松田議員)**

ありがとうございます。私が懸念しているような問題についても解明されているようでございまして、大変いいなと感じました。

最後に、皆さんからは、若者の視点から自分たちの問題を見つめて、この青森県に留まっていくと、そして青森県を支えていく若者づくりの力になるという確信の下に提案がありましたが、ぜひ、青森県の高校生が全体としてこういうテーマで大いに議論をするということができるといいなと感じました。ありがとうございます。